ISSN 1884-7730

安曇野ちひろ美術館
美術館だより

No.86
2016.4.28

ちひろのスケッチ紀行

●2016年5月14日(土) ～7月11日(月)

絵を描くことの次に旅が好きだと語ったちひろは、心の故郷・信州をはじめとする国内はもちろん、当時はまだ珍しかった旧ソビエト(ロシア)やヨーロッパ各地への海外旅行にも出かけています。本展では、国内外でのスケッチを展示し、ちひろの旅の足跡をたどるとともに、絵本制作への影響など、旅と絵との関わりにも注目します。

信州への旅

父母の郷里である信州は、ちひろが幼少期より夏休みを過ごし、戦後は両親が北安曇郡松川村(図１)に開拓農民として入植したゆかりの地です。終戦間際には母親の実家の松本に疎開し、ちひろも敗戦後の模索期を過ごしました。終戦の翌年には画家を目指して東京に戻りますが、結婚後も毎年のように夫や息子とともに信州各地を訪れています。上高地や白骨温泉(図２)、中房温泉から燕岳への山行き、年越しやスキーで逗留した小谷温泉、1966年にはちひろが愛した小林一茶の里に近い黒姫高原に山荘を建て、ここで数多くの作品を制作しました。季節の草花や山並みをスケッチに収め、『花の童話集』などの絵本に信州の豊かな自然の描写を生かしています。

旧ソビエトへの旅

1963年６月、ちひろは世界婦人大会の日本代表団の一員として40日間にわたり旧ソビエト各地を旅する機会を得ます。忙しい公式行事の合間にも200点ものスケッチを残し、古都レニングラードでは北欧風の街並みに、アンデルセン童話の世界を連想したといいます。異国情緒あふれる風景だけでなく、画面に人物をさりげなく描き込んでいる(図３)のも、ちひろの旅のスケッチの特徴のひとつで、迷いのない線で瞬時に人物の動きをとらえています。モスクワで開催された世界婦人大会には113の国の代表が参加、平和への思いを熱く語る各国婦人の姿(図４)をちひろは深い共感をもって描き、手記に「婦人はどこの国でも子どもを愛し、平和を愛し、美しくその国の着物をきていました」と綴りました。

ヨーロッパへの旅

1966年３月、ちひろは母・文江を伴って約１カ月におよぶ画家仲間たちとのヨーロッパ旅行に出かけます。アンデルセンの『絵のない絵本』(図５)を描くための取材も兼ね、ロンドンやパリ、トレド(図６)など各地を巡るほか、アンデルセンの生地・デンマークのオーデンセを訪ねることも旅の大きな目的でした。「なにからなにまで見なければ描けないなんてことはないけれど、じかにこの目で見、ふれることのできる感動がどんなにわたくしを力強く仕事に立ち向かっていけるようにするか」と語ったように、後に描かれた『あかいふうせん』(図７)や『にんぎょひめ』など欧州を舞台にした絵本には、旅先で目にした建物や調度品、街角の風景が生かされ、画面にリアリティーを与えています。

ほかにも函館や登別などの道南、千葉の房総、広島、京都から奈良への大和路(図８)、73年にはハワイにも渡航し、遺作『赤い蝋燭と人魚』の取材では病をおして新潟県郷津を訪れています。日常から解放される旅は、美しい自然や異なる文化を肌で感じ、新鮮な驚きや感動を心に刻むときでもありました。旅で得た確かな実感が、豊かな創作活動を支えていました。線の表現の変遷もたどりながら、ちひろのスケッチ紀行をお楽しみください。　(山田実穂)

〈企画展〉 あべ弘士の動物王国展

●2016年5月14日(土) ～7月11日(月)

行動展示*の先駆けとして注目を集める旭山動物園(北海道旭川市)で、25年間、飼育員を勤めた異色の経歴を持つ絵本画家あべ弘士。本展では、「旭山動物園」「アフリカ」「北極」をテーマに、新旧の作品を多数紹介し、ユーモアのなかにいのちの営みを映し出す創作の根源に迫ります。

旭山動物園

幼少期より絵が好きだったあべは、独学で画家を目指しますが、夫人との出会いを機に、23歳で旭山動物園の飼育員として働き始めます。兎やカワウソから、熊、象、キリンまで、さまざまな動物を担当したあべは、「それまでの自分の興味とかいろんなものが全部ふっとんでしまうぐらい、ものすごくおもしろい仕事だった」と語り、背中に「動物命」と書いてあるかのごとく没頭していきます。

タウン紙や園の機関誌の仕事をきかっけに、再び絵筆を取り始めたあべは、1981年、『旭山動物園日誌』で絵本画家としてデビューします。鋭い爪と眼光のクマタカ(図２)や、係員の奮闘に抗うシカ(図３)など、この時代は、ペンやコンテ、鉛筆などの画材を多用し、緻密な線描を重ねて、それぞれの動物特有の姿態を丁寧に表現しています。「骨格や筋肉のつき方、毛の流れなんかも、自然と正しく描いてる。嫌というほど触ってきたから、体で覚えてる」と語るように、実体験を礎とした本書には、画家がとらえた動物の姿がリアルに描き出されています。

アフリカ

1996年、動物園を退職したあべは、野生動物を見るため、世界各地を旅するようになります。1998年からは、毎年のようにアフリカを訪れています。『ライオンのよいいちにち』(図１)には、サバンナの壮大な景色と、散歩するライオンの親子が鮮やかな色彩で描かれています。細かな描写を避け、最小限の筆数による太く勢いのある筆致で描いた作品には、雄大なアフリカの大地とライオンという動物の存在そのものが映し出されています。

水蒸気から雲が生まれ、雨となって再び大地に戻る、動物たちが食物連鎖を繰り返し、その屍が養分となり大地を豊かにする……、アフリカの地に立ち、あべは「生命はぐるぐるまわっている」と感じたと語っています。自身が感銘した生命の循環を、大胆に省略した表現のなかに凝縮した一作となっています。

北極

2011年、あべは仲間とともに、北極圏のスバールバル諸島（ノルウェー）を訪れ、約４週間滞在しました。“約束の地”を目指すカオジロガンの群を描いた『新世界へ』もこの旅の体験から生まれた絵本です。横長の版形を使い、ガンたちの白いシルエットと、海にそびえ立つ岩山を描いた作品(図４)は、北極で見た約60万羽のウミガラスが集まる大岸壁をもとに描かれました。北極は「氷と岩しかない不毛な地」とのイメージを覆し、豊かな生態系が営まれる豊穣な土地であると知ったときの感動が、新世界を目指す鳥たちの旅を通して伝わってきます。

「動物たちとの毎日は、今考えてみると、絵を描くことにとって遠回りのようで、実は近道だったのかもしれない。(中略)難しいのは、なにを描くのかの“心”で、私はその心を動物や自然から教わった」と語る画家。種を越え、真摯に動物と対峙してきたあべ弘士の世界は、見るものに生きることの意味を投げかけてきます。(宍倉恵美子)

＊行動展示―動物の特有の“行動”や“生活”を見せる展示

ちひろのスケッチ紀行　●展示室1

図1　神戸原より田園風景をのぞむ
1950年頃

図2　白骨温泉・入浴する夫、善明
1950年

図8　長谷寺付近　1971年

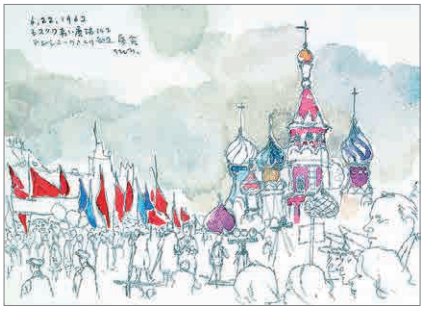


図3　モスクワ　赤の広場　1963年

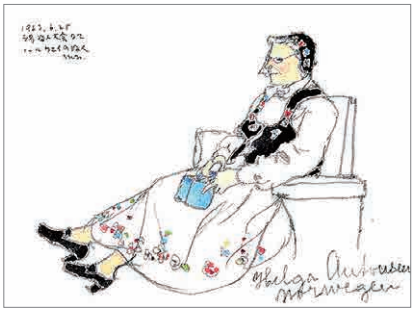


図4　モスクワ　世界婦人大会　ノルウェーの婦人　1963年

図5　煙突掃除の少年
『絵のない絵本』(童心社)より　1966年

図6　トレド　石畳の道を
歩く女性　1966年

図7　パスカルのアパートと風船
『あかいふうせん』(偕成社)より　1968年

〈企画展〉あべ弘士の動物王国展　●展示室4・多目的ギャラリー

図1　『ライオンのよいいちにち』(佼成出版社)より　2001年

『あらしのよるに』(講談社)大型版表紙　2000年

図2　クマタカ『旭山動物園日誌』
(出版工房ミル)より　1981年

図3　シカの角きり『旭山動物園日誌』
(出版工房ミル)より　1981年

ニホンカワウソ　2004年

キタキツネ　『どうぶつ友情辞典』(クレヨンハウス)より　2003年

図4　『新世界へ』(偕成社)より　2014年

あべ弘士　1948〜

北海道旭川市に生まれる。
1972年から25年間、旭山動物園の飼育係として勤務。1981年『旭山動物園日誌』で絵本画家としてデビュー。
1995年『あらしのよるに』で講談社出版文化賞絵本賞、1999年『ゴリラにっき』で小学館児童出版文化賞、2000年『ハリネズミのプルプル』シリーズで赤い鳥さし絵賞など受賞多数。

5月14日(土)～7月11日(月)　ちひろ美術館コレクション　ふしぎな動物たち

本展ではコレクション作品から不思議な動物が登場する作品を紹介し、動物に込められた画家たちの思いを紹介します。

神話に登場する動物たち

ジャン・ギョクニル(トルコ)「病気の魔除け」(部分)　1997年

人は自分を取り巻く世界を理解するために神話を作り、病気や悪、災いから人を救うものとして、空想上の生き物を生み出してきました。古代アナトリアの神話に描かれた神や巨人、ドラゴン、人と動物を組み合わせた生き物の姿に魅了されたというジャン・ギョクニルは、「彼らはどんなに素晴らしく超自然的な姿をしていても、常に人の一面を語っており、世界をどのように見るべきかを示してくれる」と語っています。ギョクニルは、魔除けの儀式を行う動物を2本足で踊る姿で描くことによって、恩恵も災いももたらす自然に対して人が抱いてきた畏敬の念を、現代に蘇らせました。

動物に思いを託す

ユゼフ・ヴィルコン(ポーランド)「ブルース・演奏する象」　1994年

長い鼻が管楽器になった不思議な象が描かれています。奏でている音楽は「象牙のために殺すことのブルース」。ユゼフ・ヴィルコンは、アフリカに生息する象に、黒人の抑圧された生活の苦悩や絶望を歌ったブルースを演奏させることで、人によって命を奪われた象への鎮魂と哀悼の意を表しました。

奇妙な形をした動物たち

エンリケ・マルティネス(キューバ)「動物シリーズ No/28」　1990年

雄牛の角に猫の顔をした動物、鳥の体に猫の顔をした奇妙な動物たちが描かれています。サーカスや動物園で自由を奪われて暮らす動物たちが、年に一度集まり体の一部を交換しあう物語『どうぶつたちのおまつり』を創作したエンリケ・マルティネスは、異なる動物を組み合わせて独自の動物を生み出してきました。「大切なことは、一人ひとりが想像力を働かせること」と語るマルティネスは不思議な動物の姿を通して、柔軟に考え物事を切り開いていくことの大切さを伝えています。　(長井瑶子)

松川村・安曇野ちひろ公園　トットちゃん広場オープンに向けて②

いよいよ7月23日にオープンを控える安曇野ちひろ公園・トットちゃん広場(長野県・松川村営)。今回は現在進行中の開園へ向けた取り組みについて紹介します。

公園造成工事の進捗

電車の教室として使用される2両は、窓ガラスや屋根部分などの補修を経て、本来のマルーン色(栗色)に塗り直されました。電車の脇にはプラットホームがつくられています。トモエ学園の講堂をイメージした出窓の意匠が印象的な休憩所も建てられ、トットちゃん広場の全貌が見えてきました。休憩所では、トモエ学園の教育方針や当時の子どもたちのようすを伝える写真などのパネルが展示される予定です。また同時に、園内では案内の立て札などの設置も進行中です。「畑の先生」や「飯ごう炊さん」、「トットちゃんの道」や「ロッキーの寄り道」など、トットちゃんの物語のなかのエピソードを紹介する案内をたどりながら、楽しく散策できるよう考えられています。

「電車の教室」展示計画

建物の完成のあとには、いよいよ電車の教室の展示が準備されます。教室には、机や椅子、ランドセル、理科の実験器具などが置かれ、トットちゃんやトモエ学園の生徒が、授業を受けていた1940年頃のようすに、できる限り近づくよう再現されていきます。そこで、展示するための古いセルロイドの定期入れ、筆箱、地球儀などの小物類は一般募集しました。全国のみなさまから寄せられた思い出の詰まった大切な学用品を、トットちゃん広場で未来へ引き継いでいきます。

ちひろ公園サポート隊の発足

開園に向けて、新たな公園の活動を支える柱となるボランティアグループ「ちひろ公園サポート隊」が松川村の呼びかけにより発足しました。有志96名から始まり、現在徐々に増えています。定期的な会議では、開園イベントや開園後のプログラムなどについて、活発に意見交換が行われています。松川村の豊かな魅力と、トットちゃんの物語でつづられた、ひとりひとりを大切にするトモエ学園の理念を発信できる公園となるよう、みんなで知恵と力を出し合っていきます。どうぞご期待ください。(入口あゆみ)

4月16日(土)　ギャラリートーク＆ワークショップ　花を楽しむ

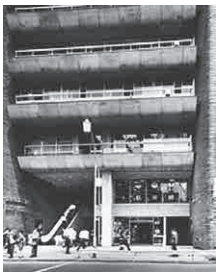
「ちひろ―その心、花にたくして」の展覧会に関連して、花を楽しむイベントを開催しました。

まずは展示室で、ちひろが描いた花の作品を鑑賞しながら解説を聞くギャラリートーク。学芸員がちひろの代表作「花の精」の解説で、「絵を下から見ると、頬づえをついているのが分かります」と話すと、みなさんしゃがんで作品鑑賞。正面から見ただけでは分からない絵の秘密を知ることができました。

ギャラリートークの後は、安曇野で古道具と植物の店 kokageya を営む荒良木(あらき)つつじさんを講師に「花のモビールづくり」のワークショップ。古道具とともに雰囲気良く並べられた小さなドライフラワーは、色もかたちもさまざま。各自20種類を選んだら、組合せを考え、全体で8～10個のセットを作ります。この「花を選ぶ」「花を組合せる」ことが、花のモビールづくりの醍醐味。細いワイヤーで結び付け、春らしい色とりどりのモビールが完成しました。花をテーマに見る楽しみと作る喜びを味わえるイベントとなりました。(松澤理佳)

ちひろを訪ねる旅⑥1

新宿・紀伊國屋書店



竣工当時の紀伊國屋ビル　1964年

新宿伊勢丹から西に30m。同じ新宿通りに、1927年（昭和２）１月に、田辺茂一が創業した紀伊國屋書店があります。はす向かいは、1901年（明治34）、相馬愛蔵・黒光夫妻が開業した中村屋です。

店名は、紀州出身の田辺の祖先が同地に開いた薪炭問屋の屋号を継いだもの。田辺は、幼い頃に書店の丸善で見た洋書に魅了され、長じて書店を開くに至りました。

創業時から、２階に画廊を併設し、安井曽太郎、佐伯祐三、東郷青児など錚々たる画家たちの展覧会が次々と開かれました。その一方で、田辺は小中学校の同級生でもあった作家・舟橋聖一と文芸同人誌を発行、出版するなど、書籍販売にとどまらず、文化の創造と発信に力を入れました。紀伊國屋は、そうした活動の拠点として、作家、画家たちの文化サロンとして、活発に利用されました。

戦前の一時期、新宿駅西口の文化服装学院で書道の師範代をしていたいわさきちひろですから、画廊のあった紀伊國屋書店にも足を運んでいたことでしょう。しかし、'45年５月25日の空襲で店舗は焼失。その日、ちひろの中野の家も全焼しました。

紀伊國屋書店の再出発は、敗戦後の12月。'47年５月には、「戦後書店建築の白眉」と評された新店舗が開店。設計は、ル・コルビュジェやアントニン・レーモンドの下で学んだ建築家・前川國男。'64年には、やはり前川の設計で地上９階、地下２階の現在のビルが竣工します。地下と１階には飲食店や個性的な小店舗が入り、４階には、画廊とホールを併設した複合施設の書店は、今でこそ一般的ですが、当時としては時代の最先端。ちひろが所属していた童画ぐるーぷ車の展覧会も、幾度かここ紀伊國屋画廊で行っています。

市井の本好きから、作家、画家、演劇人、映画人、落語家まで、幅広くに愛されたこの書店での展覧会は、画家たちにも張りのあるものだったでしょう。その画廊も2012年に閉鎖。一時代の役目を終えました。　（竹迫祐子）

ひとことふたことみこと

3月3日（木）
普段、美術とは縁のない生活をしていました。なので、作品を見てもなにも感じないかなぁと思っていました。しかし、いくつかの作品が目に留まりました。これが今後の生活のなかで、何らかのきっかけ（ひらめき、感覚的な部分の）になると思います。　（K）

3月13日（日）
親子で絵本を読むためにデザインされた椅子。これに座りたくて来館しました。ちひろのやさしい絵本とマッチしていてステキです。

3月15日（火）
高校のときから、いつかいつか「いわさきちひろ美術館」へ行きたいとねがい続け、やっとかないました。娘ふたりと一緒に楽しんで帰ります。（石川県羽咋市　中山）

3月23日（水）
お花が、ほんものみたいできれいでした‼　（椿心・７さい）

3月25日（金）
幼いころからちひろさんの絵がとてもすきです。私はこの春大学生になります。ポストカードを勉強机の上にかざろうと思います。

4月1日（金）
絵具の使い方がとてもうまいと思いました。見たまんまの花ではなくしっかりと自分の描きたいものにアレンジしていたのでとてもすごいなと思いました。この絵のかき方をわすれずに学校でも図工の時間に生かしたいと思います。
（愛知県　S.Y）

4月2日（土）
同じ一生で波乱万丈な生活の中に個性を生かし精一杯生きた姿は自分とはこんなにも違うものかとさまざま考えさせられました。改めて自分を見つめることができました。　（81才　主婦）

みやぎ生協『いわさきちひろ複製画展』感想ノートより

「平和の大切さ」を小さな子どもたちに言葉で伝えるのはちょっとむずかしいところがあるけれど、いわさきちひろさんの絵には目にしただけで伝わる大切なものがあると思います。あたたかでやわらかい色・筆づかい・子どもたちの表情、これからも大切にしていきたいですね。

＊　＊　＊

平和のときの眼と、戦のときの眼はなんて異なるのでしょう。子どもたちを、二度と戦のときの眼にさせてはいけないと思いました。

美術館日記

3月7日（月）
「ちひろ―その心、花にたくして」展に関連してドレスコード特典を実施中。「花」をモチーフにしたファッションでご来館の方にはワンドリンクをサービス。花柄のスカーフとコサージュを身につけたお客さまの「ＨＰで特典を知って、コーディネートしてきたわ」というお声がうれしい。

3月14日（月）
トットちゃんが学んだトモエ学園では、時間割の順番は決まっておらず、生徒は好きな教科から順に勉強していたそう。このエピソードにちなんで、電車の教室の一部を再現した新設の「トットちゃんの部屋」には３つのお道具箱を用意。好きな“授業”を選んで体験することができる。なかでも人気は、中庭の花を虫めがねを使って観察し、スケッチをする「生物・理科」。真剣なまなざしで夢中になって取り組む子どもの姿がトットちゃんに重なり、思わずこちらも笑顔に。

3月18日（金）
トットちゃんの部屋や絵本カフェなど、館内にて無料でご利用いただける無線ＬＡＮサービスの提供を開始。撮影スポットで撮った写真をＳＮＳに投稿したり、ワークショップの様子などをお友だちにお知らせしたりと、ぜひ当館での楽しみ方を発信してほしい。

3月27日（日）
本日は初開催の長野県民入館無料デー。長野市や諏訪市からもご来館いただいた。長野県のＰＲキャラクターのアルクマ、松川村マスコットキャラクターのリンリン＆りん太も駆けつけ、子どもたちに大人気。写真撮影を待つ列ができ、親子連れで賑わった。今年は、昨年に引き続き近隣の市町村別の入館無料デーも設けている。地域の方に気軽に足を運んでいただくきっかけになれば。

●次回展示予定　2016年7月15日（金）～9月27日（火）

〈展示室1・2〉松川村・安曇野ちひろ公園

トットちゃん広場オープン記念展「みんな、いっしょだよ。」

個性を育む教育を行っていたトモエ学園での日々をつづった黒柳徹子（ちひろ美術館館長）の著書『窓ぎわのトットちゃん』は、世代を超えて読み継がれ、世界中で愛されています。トモエ学園の電車の教室を再現した「トットちゃん広場」*のオープンに合わせ、黒柳徹子の文章とちひろの絵が織りなす『窓ぎわのトットちゃん』の世界を紹介します。

＊安曇野ちひろ公園北側

いわさきちひろ
こげ茶色の帽子の少女
1970年代前半

〈展示室2〉ちひろの人生

〈展示室3・4〉BIB50周年 ちひろ美術館コレクション

絵本の歴史をつくった画家たち

出久根育　『マーシャと白い鳥』
（偕成社）より　2005年

世界最大規模を誇る国際コンクール「ブラティスラヴァ世界絵本原画展」（BIB）は、その芸術性の高さで知られています。BIB 創設50周年を記念し、コレクションより、国際的な絵本賞の受賞画家作品を紹介します。この半世紀、絵本文化に新たな歴史を加えた画家たちの、魅力あふれる作品をお楽しみください。

〈展示室5〉絵本の歴史

安曇野ちひろ美術館　イベント予定

各イベントの予約・お問い合わせは、安曇野ちひろ美術館へ。
詳細・最新情報はホームページからもご覧いただけます。 http://www.chihiro.jp/　TEL. 0261-62-0772　FAX 0261-62-0774
https://www.facebook.com/chihiro.azumino

〈企画展〉あべ弘士の動物王国展　関連イベント

●あべ弘士によるワークショップ「キリンをつくろう！」

『あらしのよるに』シリーズで人気の絵本画家・あべ弘士を講師に招き、ワークショップを開催します。ダンボールを使って、色を塗ったり、紙や糸を貼ったり……、世界にひとつだけの「キリン」をつくります。
主　催：松川村図書館、安曇野ちひろ美術館
日　時：5月14日（土）13：30～15：30
会　場：すずの音ホール（松川村）
対　象：小学生　　定員：20名
参加費：無料
申し込み：要事前予約（松川村図書館TEL.0261-62-0450、安曇野ちひろ美術館 HP、TEL.0261-62-0772にて）

●あべ弘士ギャラリートーク

あべ弘士

画家本人が自身の作品について語ります。
日　時：5月14日（土）10：30～
会　場：安曇野ちひろ美術館　展示室4ほか
参加費：無料（入館料別）
申し込み：不要（参加自由）

●5月18日（水）　国際博物館の日

この日はどなたでも入館無料となります。

●近隣市町村入館無料デー

日ごろの感謝を込めて、美術館近くの市町村にお住まいのみなさんに向けて、入館無料でお楽しみいただける優待日です。お誘いあわせのうえ、ぜひご来館ください。
※当日は、ご住所を確認できるものをお持ちください。
5月22日（日）大町市民入館無料デー
6月12日（日）松本市民入館無料デー
6月26日（日）白馬村・小谷村民入館無料デー

●第5回安曇野まつかわ「五月の風」音楽祭　街角コンサート

松川村すずの音ホールに隣接するリンリンパーク（雨天時：すずの音ホール）で開催される音楽祭の一環として、参加グループによるミニコンサートが開かれます。
日　時：5月22日（日）10：30～
会　場：安曇野ちひろ公園
料　金：無料
※詳細のお問い合わせは、安曇野まつかわ「五月の風」音楽祭実行委員会　TEL.0261-62-2481（すずの音ホール）まで

ちひろのスケッチ紀行展　関連イベント

●ちひろが愛した安曇野・まつかわ　北アルプスパノラマウォーク

舟方遊歩道©松川村

ちひろが松川村の風景を描いたスケッチポイントや松川村内に点在する神秘的な遺跡などを巡るウォーキングイベントです。地元ガイドによる案内や美術館スタッフによる解説のほか、りんごジュースの試飲も。北アルプス連峰が水田に映り込む絶景を望む8kmのウォーキングコースをお楽しみください。
主　催：松川村観光協会
協　力：安曇野ちひろ美術館
日　時：5月28日（土）9：00～13：00
参加費：一人1000円（保険料含む）
定　員：100名
申し込み：要事前予約（5／24〆切、松川村観光協会TEL.0261-62-6930）

●ギャラリートーク

毎月第2・4土曜日14:00～ちひろ展、14：30～世界の絵本画家展
展示室で作品を見ながら、担当学芸員が展覧会の見どころなどをお話します。
（参加自由、入館料のみ）

●おはなしの会

毎月第2・4土曜日11:00～
展示や季節にあわせて、絵本の読み聞かせや素話などをおこないます。
（参加自由、入館料のみ）

CONTENTS

〈展示紹介〉ちひろのスケッチ紀行／〈企画展〉あべ弘士の動物王国展…❷❸
〈展示紹介〉ちひろ美術館コレクション　ふしぎな動物たち／〈活動報告〉松川村・安曇野ちひろ公園　トットちゃん広場オープンに向けて②／ギャラリートーク＆ワークショップ　花を楽しむ…❹
ちひろを訪ねる旅61／ひとことふたことみこと／美術館日記…❺

美術館だより　No.86　発行2016年4月28日

安曇野ちひろ美術館
〒399-8501　長野県北安曇郡松川村西原3358-24　テレホンガイド0261-62-0777　TEL.0261-62-0772　Fax 0261-62-0774
http://www.chihiro.jp/　E-mail:chihiroa@seagreen.ocn.ne.jp